

# いちげ 一夏会報

No.68



平成30年11月1日  
発行：鶴見大学

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3  
TEL.045-574-8623(ダイヤルイン)  
https://www.tsurumi-u.ac.jp



鶴見大学 学長  
大山 喬史

## 俳句の勝手読み！

「名月や 池をめぐりて  
夜もすがら」(芭蕉)

「十五から 酒を飲み出  
で けふの月」と詠んだと  
いう、そんな酒好きの其  
角に誘われて、芭蕉が舟  
遊びに出かけた。その時に  
吟じたものがこれ。はじめ  
は「池をめぐって」という  
リズムカルなものだったも  
のを、後で「池をめぐりて  
と書き変えたそう。芭  
蕉は、名月の下に、ゆった  
りと静かに時を愉しんで  
いる己が心情を伝えた  
かったのだろう。

「古池や 蛙飛び込む  
水の音」(芭蕉)

芭蕉は、ひっそりとした  
池をしみじみとした面持  
ちでぼんやりと眺めていた  
はず。そんな時に突如、一  
弦をつま弾いたような  
「ポッチャン」という音を  
耳にした。「おや！蛙が飛  
び込んだ音かな」と詠った  
のが、下の句「蛙飛び込む  
水の音」。それでいて  
「ポッチャン」という音は、  
辺りの静寂さを破らない。  
芭蕉にとつては余ほど心  
に染み入る響きだったの  
か。そこで、芭蕉は、弟子  
たちに「上の句はどうか  
ね」と尋ねてみた。みんな  
は「山吹や」と答えたそう  
だ。とすれば、「その池の  
辺には真つ黄色の山吹の  
花が咲いていた。そこに一  
匹の蛙が飛び込んだ」とい  
う、くつきりした何か華や  
いだ、いかにも派手な情景

が想像される。

勝手読み…しかし、芭蕉  
が引き出したのは「古池  
や」という上の句。しんみ  
りとした静寂な中で、芭  
蕉が「ポッチャン」という  
音を聞いた時は、これと  
いつて何を見ていたわけ  
もなく、水面に寄る細波  
にも気づいていない、もち  
ろん蛙も目に入っていない  
い、そんな水墨画に描かれ  
たようなぼんやりとした  
情景の中で、芭蕉はどんな  
思いに耽っていたのであ  
るか。

千代は、朝ごはんの準  
備のために水を汲みに出  
た。ところが、その井戸の  
つるべに巻き付いている今  
日の朝顔のなんと美しいこ  
と、朝日をいっぱい浴び  
た格別の輝きに感動、圧  
倒され、「あらあ！朝顔が  
つるべに巻き付いている  
よ。今日は、お隣さんから  
お水を貰うことにしよう」  
と、思わずお隣さんにお  
水を貰いに行ってしまった  
のではなからうか。

勝手読み…ここで「朝顔  
や」と、切れ字「や」の活  
用で、朝顔のいつもと違う  
あまりの美しさに、目を  
見開くほどの驚き、感動  
した心情が如実に感じら  
れる。

しての感動も失せ、ただの  
散文となってしまふ。  
「蠟梅に 静かに思う こ  
とのあり」

自宅に、小さいながら  
も蠟梅の木が一本ある。蠟  
梅の咲く寒月、仕事帰り  
の夜更けとは言え、この蠟  
梅に暫し足を止められる。  
それが懐かしさなのか、淋  
しさなのか、どちらとも言  
えない、そんな交錯した感  
傷に身を浸す。ここでの主  
格は「思う」にあるので、「蠟  
梅に」となった。

「蒼穹にまたたく星辰のも  
と  
蠟梅を眺めつ／ふと気が  
付けば  
その優しいかおりに／身  
も心も包み込まれる  
そこには恥ずかしげに／  
慎ましく俯く蠟梅の花  
星の光を映してか／仄か  
に黄色く、静かにたゆた  
ふ  
小さな豆電球とも思はゆ」

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

勝手読み…夕闇に輝く  
月あかりが、散策する池  
の周辺を映し出している。  
芭蕉は辺りの影を定かに  
見ているわけでもないの  
に、ゆったり揺れる水面に  
映る月影は、片時も離れ  
ることなく追ってくる。こ  
の散策は、安らぎなのか、  
寂しさなのか。

# オーブンサイエンス (開かれた科学)と図書館



鶴見大学司書・司書補講習  
主任教授  
角田 裕之

一千葉県済生会習志野病院図書室等によるCancer information: A survey of health and medical information services offered by public libraries in Japan (がん情報：日本の公共図書館が提供する保健医療情報サービスの状況調査)

一立正大学図書館によるWar-Koshi! Learn and discover by seeing, touching, and feeling (和古書！見て触れて感じて、学びと発見)

一同志社大学等によるThe development of the book report creation support game (ブックレポート作成支援ゲームの開発)

一ドイツ文化センター図書館によるImproving skills for the protection of printed heritage (印刷遺産保護のための技能向上)

私のポスターでは日本と中国のオープンサイエンスの現状と課題を発表しました。オープンサイエンス(開かれた科学)とは、学術研究の成果を社会に還元する目的で、論文の他に研究に利用したデータや実験結果の情報をすべてウェブに公開し、だれでも自由に閲覧し、再利用や検証を可能にする仕組みです。オープンサイエンスが実現すれば、研究資源の効率的な再利用や研究のエビデンス(証拠)の確認が容易になります。既に、大学等の学術図書館では、論文の公開を機関りポジトリで実現しており、今後、研究データ等の公開を支援することが重要な課題となります。

最後にりましたが、受講生の皆様が、図書館等に係る仕事に就かれ、さらに活躍されますことを期待しております。(邦訳は、執筆者の角田による。)

司書・司書補講習の講習生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年の講習期間は、記録的な猛暑が続き、体調管理に気を使われ、さらに、頻繁に台風に見舞われたため、他科目の授業日に補講が組まれ、予習や復習の時間を確保することに苦労されたのではないのでしょうか。皆様が一夏会報を手にとられている頃は、いくぶん過ごし易くなっていることと思います。さて、司書資格を取得するには、必修が十一科目で二十二単位、選択が二科目で二単位、合わせて十三科目で二十四単位を取得する必要があります。大学や短期大学で司書資格を取得するには、四年間あるいは二年間に渡り段階的に学習します。ところが、司書講習で取得するには、段階的学習を僅か二箇月間で修了しなくてはなりません。よって、授業時間割も午前九時に始まる一

時限から午後四時十分に終わる四時限まで、あるいは、午後五時五十分に終わる五時限まで続くことが多くあります。本講習を修了するには、盛大な学習意欲、強靭な精神力と体力が必要とされます。目標を達成できたのは、講習生ご自身の努力はもちろんですが、ご家族のご理解やご協力、講習生同士の励まし合いも大きな支えとなったことでしょう。

本講習は、六十年を超えて開講され、継続する講習のなかで、最も歴史と伝統があります。本学が刊行した「鶴見大学司書・司書補講習六十周年記念誌」のなかで、「日本の司書養成と鶴見大学司書・司書補講習」と、「鶴見大学司書・司書補講習の六十年間の歩みと将来展望」が開講するまでの歴史を解説しています。また、担当講師や修了生の思い出も掲載されており、

本講習が多くの有能な図書館の教育者や図書館員を社会に送り出したことがよく分かります。

さてここから、マレーシア・クアラルンプールで今年開催された国際図書館連盟(IFLA)の年次大会についてご紹介します。期間は八月二十五日から三十日までの六日間で、百十二か国から図書館員や大学等の教員が三千五百人以上集まり、本講習の講師五名の先生も出席されました。今年のテーマは、Transform Libraries, Transform Societies(変革する図書館、変革する社会)で、社会とともにある図書館が、変革する社会に合わせ、自らも変革する決意を宣言しています。本テーマに沿って、二百五十以上のセッション(会議や発表)が開かれました。今回私が参加したセッションのひとつにポスターセッションがあります。ポ

スターセッションとは、世界中の図書館員や研究者が、活動や成果等をポスターで発表する場です。今年には、世界中から百二十以上の機関が参加し、日本からは、私のポスターを含め、次の六つの発表がありました。

一国立国会図書館によるdata repository and management (日本と中国におけるオープンサイエンスの現状・政策・研究データリポジトリと管理)

一国立国会図書館によるConnections and collaboration of 800 libraries in Japan: Collaborative Reference Database (日本における八〇〇の図書館の連携協同：レファレンス協同データベース)



ポスターセッション：クアラルンプール国際会議場にて

# 「図書館情報技術論」を

## 担当して



鶴見大学 名誉教授  
長塚 隆



司書・司書補講習を受講された皆さん、夏の二ヶ月間ご苦労様でした。今年の夏は猛暑が続き、体調を維持しながら毎日数時間に及ぶ集中講義や試験・レポート作成など大変なことだったと思います。私は、図書館情報資源特論(自然科学)と「図書館情報技術論」を担当

させさせて頂きました。この両方の授業とも、自然科学やコンピュータのことを学習するということが、あまり親しみがない方々も多く、どのようにしたら授業を通じて親しみを持ってもらえるかを工夫して来しました。

本来は、講義科目ですがなるべく学んだことを直後にコンピュータに触り自分で体験する時間を取るようにしてきました。幸い、何人かの受講生からは受講する前は理解できるか不安が大きかったのですが、実際にコンピュータで体験してみると理解が深まったし、楽しく感じることもあるようになったと言ってもらえることもありました。

また、受講生のなかには情報技術関連の分野で仕事をされていた方などもおられますので、課題の検討やコンピュータでの演習を4-5名のグループで行ってもらうようにしました。原則として、毎時間ごとに課題について各グループで検討して、発表してもらおうようにしています。そのため、すべての授業は地下のホールで行い、コンピュータ演習の時に3階のパンコン教室に移動するようしました。

受講生には地下ホールのステージ上で発表してもらっています。これは、大きな会場で多くの方が聞かれているところで発表した経験はそれぞれの受講生に取ってかけがえない財産となると考えているためです。毎年、グループでの議論になれない方も何人かおられ、相談されることもありま。その時には、今後の図書館での仕事では図書館員同士での議論や相談は欠かせないし、その準備と考えると少し努力してみてくださいと答えられるようにしています。

近年の情報技術とネットワークの進展は社会を大きく変え、従来の国の範囲を超えて色々な知識や経験が伝達しやすくなっていきます。ですから海外での図書館の動向や筆者自身の国際図書館連盟(IFLA)の委員会での活動なども紹介し、

海外の図書館の動向にも大きな関心を持って貰いたいことを授業の中で伝えるようにしています。「図書館情報技術論」は35日の集中授業なので、受講生にとっては情報技術に関連する概念や多くのカタカナ語の用語をその場で理解することが求められます。講義の終了後に提出してもらった授業の感想や意見から見ると、情報技術に関する新しいことが理解できるか不安でしたがグループでの検討や議論あるいはパソコン教室で自分で実際に試してみることが理解が深まったと受講生が感じてくれたようです。毎日、パソコン教室でグループごとに課題について取り組み、パワーポイントにまとめ、地下のホールで発表してもらった形式に進めましたが、一日ごとに各グループの発表の内容やパワーポイントでの表現がよくなっていくのが嬉しかったです。試験の終了後に優秀発表賞(グループ16)や優秀発表賞(次点)(グループ5、14)を発表した時に受講生全体で祝福してくれたことも喜びでした。



# アンテナを高く



聖学院大学 講師  
黒沢 克朗

私はいま『鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌』を手にかけています。

か知りません。

私は公立図書館に42年間勤め、現在は4校の大学で児童サービスについて教えています。私の一方的な見解かも知れませんが、学生は自分から話そうとはしない、目立たないようにもの静かに息を潜めている、表情が変わらない、などの特徴があります。最初のころは講義をしていても、学生が理解しているのかどうか不安になりました。自分自身、物足りなさを感じていましたが、今の若者はこういうものだと自分に言い聞かせるように考え方を変えたら、心が軽くなりました。

10余年以上も年2回だけ鶴見駅で下車しています。が、毎回感じるのは、空気がどこか淀み、塩の香りがする、会場までの町並みが変わらない、まるで昭和に戻ったような錯覚を覚えてしまいます。そして、涼しい時期に鶴見駅の周辺を散策したいと毎年思うのですが実現したことはありません。うだるような夏の鶴見

それがどうでしょう。鶴見大学夏期講習受講生は社会人も多いせいとか、教室の雰囲気さがらりと

命とついている方、講義後、私が紹介した本を手にとっている方、受講生の目の輝きに刺激され、私も思わず力が入ってしまいます。「児童サービスの基礎」を2日間で話すことは至難の技でありますが、終了すると達成感で一杯になり、受講生の皆さんから元気をもらっています。

児童サービスの基礎のプログラムは、児童書の紹介、児童書の選定、子どもと本を結びつける、絵本の読み聞かせ、そしてレファレンスが中心ですが、とにかく時間の都合上、ポイントが抜けてはいなかったどうか、数日間私の頭を悩ませることにあります。

講義は私が一方的に話

すのではなく、グループ討議なども取り入れていきます。また、受講生に絵本の読み聞かせの実践もしていただいています。今回『ちいさなねこ』石井桃子さく 横内襄え 福音館書店を読んだ方がいましたが、ふと面白いことが頭に浮かびました。もし時間がありましたら、ユウチュウブーで『孫』を見てくださ

い。この演歌を歌っている大泉逸郎さんが孫にこの絵本を読み聞かせをしています。ほかにテレビ・映画などにも絵本が出てきます。『ブレイメンのおんがくたい』グリム(原作) ハンス・フィッシュャー 福

音館書店 はテレビ朝日の「遺留捜査7話」「100万回生きたねこ」佐野洋子 作・絵 講談社はフジテレビ「グットドクター7話」、是枝裕和監督の映画「万引き家族」などにポイントとして出てきます。マスコミの影響はとも大きいものです。私は良い傾向だと思います。テレビ・映画関係の製作者たちが、小さいころ絵本で育っているのではないかと、つい想像してしまいます。そういうのをきっかけで、本が売れ、読んでみたいという人が増えると嬉しいことです。司書はあらゆる情報を得て発信することも

必要です。そのためには、アンテナを高くして日常生活をおくることです。鶴見大学で司書補を受講し、他の大学の司書講習も受講されている方がいました。本人から申し出てくれましたが、その方の熱意には敬服したと同時に嬉しさが込み上げてきました。他にも学校図書館で働けるようになったと連絡をいただいたこともありました。着実に鶴見大学の夏期講習で育った方たちが司書として活躍されています。私は皆さんの応援をこれからも細々としていきます。





## 司書としての スタートライン

松本航季



七月から始まった司書講習も終盤を迎える中、この原稿を書いております。思い返せば非常に内容の濃い約二ヶ月間でした。奇しくも平成最後の夏というメモリアルイヤーに受講となった訳ですが、それに相応しい充実した日々であったと考えっております。

さらにも乗り越えることができたのは、そういったものに出逢える面白さによる所が大きかったと考えております。

新しい知識の習得の連続でした。体系的に組まれたカリキュラムを通して教えられていく様々な内容は、今までの図書館勤務で知っていた知識の延長的な内容もありましたが、それ以上に新しい発見が多く、自分が図書館に抱いていた固定観念が崩され、図書館という施設が有し、提供することができ様々な可能性に驚きました。スケジュー

がらも乗り越えることができたのは、そういったものに出逢える面白さによる所が大きかったと考えております。

さて、今回の司書講習に合格した暁には晴れて司書資格を有することになるのですが、実際のところ、私はまだまだ司書というには余りに未熟であると考えます。約二ヶ月間、非常に多くの事を必死に勉強しましたが、現在既に司書として働かれています。私はまだ身に付けないといけない知識や、業務を通してのみ養われたい経験に基づく思考・判断力など、司書に必要な多くのものがないためです。そのため、今はあくまで「司書資格を有した人」であり、今後改めて「司書」になる

ために、講習で得たものを元にして、業務に邁進して行くことが必要だと考えます。ある意味では、ここはゴールではなく、私は漸くスタートラインに立ったと言えるのではないのでしょうか。こんな偉そうなことを書いておりますが、現在まだ合格が決まっていないので、内心は戦々恐々としております…。

最後に、講習ですが、講師の方々、並びに、鶴見大学の職員の方々を始めとした、今回の司書講習の関係者の皆様に置かれましては、夏の暑い中にも関わらず大変お世話になりました。そのことに深く感謝の念を示し、終わりとさせていただきます。この度は本当にありがとうございます。また。

最後に、講習ですが、講師の方々、並びに、鶴見大学の職員の方々を始めとした、今回の司書講習の関係者の皆様に置かれましては、夏の暑い中にも関わらず大変お世話になりました。そのことに深く感謝の念を示し、終わりとさせていただきます。この度は本当にありがとうございます。また。



## 平成の終わりに 司書になるということ

山本慶



「講習ロス」そんな言葉が出てくるほど、この講習の存在の大きさを実感させられます。社会人になり、念願の図書館に關わる仕事をさせていただく中はずっと心に引つかかっていた「司書資格」という存在。三年間ずっと待ち望んでいた機会を得たときには、平成が終わろうとしていました。

「講習ロス」そんな言葉が出てくるほど、この講習の存在の大きさを実感させられます。社会人になり、念願の図書館に關わる仕事をさせていただく中はずっと心に引つかかかっていた「司書資格」という存在。三年間ずっと待ち望んでいた機会を得たときには、平成が終わろうとしていました。

誰でもいつでもどこでも読みたい本を読める環境は、これだけ物流やネット環境の発達した現代でも、実は十分ではありません。地方では書店がほとんどなくなり、小さな町には書店が無くならない。読書という行為を守る最後の砦として図書館が素晴らしい場所であるよう、日々邁進していきたいと思えます。

司書講習中には、何度か台風が押し寄せ、猛暑に見舞われ、講習の予定も変更が生じるなど決して平坦ではなかった日々。全国的には、西日本豪雨や北海道地震、関西の台風被害など、最大規模の災害がいくつも発生しました。そんな中でも我々が学びを続けられたのは、とても幸せなことです。図書館サービス

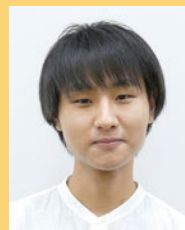
また、社会の変化と共に図書館も変化し続けていることを学びました。今までの司書では求められないことが当然異なってきました。例えば、勤務する図書館の所属する自治体が、突然電子図書館への

誰でもいつでもどこでも読みたい本を読める環境は、これだけ物流やネット環境の発達した現代でも、実は十分ではありません。地方では書店がほとんどなくなり、小さな町には書店が無くならない。読書という行為を守る最後の砦として図書館が素晴らしい場所であるよう、日々邁進していきたいと思えます。



## 学習への熱意

青木 優斗



朝のニュースが『命に  
関わる暑さ』と言った。  
平成最後の夏は、連日猛  
暑日の続く異常気象と  
なった。

み、何度も濡れそうにな  
りました。けれど先生方  
の分かりやすい講義と冷  
房のおかげで頑張ること  
ができました。

たくさん助けて頂きまし  
た。本当にありがとうございます。  
また、毎朝笑顔で挨拶  
して下さった警備員さ  
ん、朝早くから教室をき  
れいにして下さった清  
掃員さん、優しく丁寧に  
対応して下さいました。短時間で

私は今回の講習に臨  
むにあたり、一番大事な  
のは体調面の管理だと思  
い、体調を制する者は  
夏期講習を制する者をモ  
ットーに約二ヶ月間、講  
義や課題に挑みました。  
無事に乗り切ることが  
できて安心しています。  
皆さんも本当にお疲れ  
様でした。

個人的な先生方の講義  
は全て面白く、多方面から  
図書館員に求められる知  
識を得られた有意義な時  
間でした。知識を得る度  
に、図書館員になるとい  
志が高くなりました。心  
から感謝申し上げます。

そしてクラスメイトの  
方々にもとても感謝して  
います。年齢も住んでい  
る場所も違う人たちが、  
同じ時間に同じ講義を受  
けて同じ目標を持ってこ  
の講習に臨んでいる。そ  
のことがとても励みにな  
りました。その上、日毎  
に挨拶を交わす人が増え  
ると通学が楽しくなりま  
した。全ての方と話す事  
は出来ませんでした。夏  
ではなく暑い夏になり  
ました。

きっかけは、幼い頃か  
ら好きだった図書館で働  
きたいという単純な思い  
からでしたが、ずっと異  
業種で働いていた私にと  
ってこの講習は、子供  
の頃に初めてプールに入  
る時と同じくらしい挑戦  
でした。しかし、予想を  
上回る深さでした。慣れ  
ない座学や課題に苦し

この講習で、学生時代  
よりも意欲的に学習に  
取り組む、新たな自分を  
発見できました。明確な  
目標を持つ事で、学びは  
濃密なものになるのだ  
と思います。歴史的な暑  
さを記録した平成最後  
の夏は、私にとって暑い  
夏ではなく熱い夏にな  
りました。

子ども頃は本の虫  
で、図書館に非常にお世  
話になっていました。そ  
んな私が運よく図書館  
で勤めて十年を超えま  
した。その間、雇用形態  
や状況の変化等ありま  
したが、自分自身がこの  
ままではいけないだろ  
うということには分かっ  
ていました。図書館に関  
して何の下地もないま  
まで図書館に勤務して  
いくのは限界だろうと、  
受講を決心したのです。  
講習が始まると、久々  
の勉強に頭はいっぱい  
いっぱい、何の余裕も  
ありません。私は論述す  
ることが非常に苦手で  
す。書くことがとても苦  
しかったです。短期間に  
こんなに書いたのは人  
生で初と言って良いか  
もしれません。取捨がつか  
ないままに時間切れ  
となり、ひどい文章を提



## 有意義な日々

伊東 真美子



出せざるを得ず、不安に  
なったりもしましたが、  
それでも一つ一つ頑張  
るしかないのだと、自分  
を鼓舞し、何とか切り替  
えよう努めました。ち  
よっとした疑問の解消  
にすっきりしたり、ホー  
ムシックならぬ職場シ  
ックや、自分のできな  
加減等で気持ちの浮沈  
はありました。それで  
も、なんとか乗り切れた  
のは、先生方の授業がそ  
れぞれに分かり易く、お  
話は楽しく、非常に興味  
深かったことと、忙しい  
時期にもかかわらず送  
り出してくれた職場の  
皆を裏切るわけにはい  
かないということ、そし  
て、一緒に受講した皆さ  
ら、先生方、そして、見守  
ってくださった事務の方  
々への感謝を忘れま  
せん。ありがとうございました。

つしゃるのがよくわか  
りました。そんな方々か  
ら教えて頂けたことを  
とても幸せに思います。  
図書館のこと、考え方や  
サービスについて、資料  
のこ等々、いかに知ら  
なさを思い知りました。  
また、自らの意思で勉強  
するということは、とて  
も大事だと感じました。  
私は本が好きで、図書館  
が大好きだ、ということ  
を再確認できたのも収  
穫でした。

こんな有意義な  
日々を過ごせたのは久  
しぶりです。せっかく学  
んだのですから、大好き  
な図書館に還元でき  
よう、頑張ります。

先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

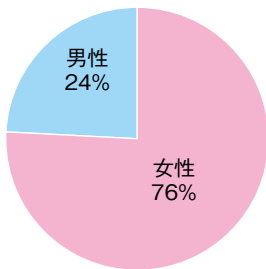
先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

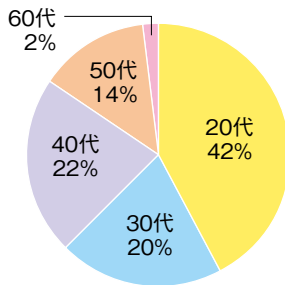
先生方が、図書館をと  
ても大事に思っ  
ていました。

# 平成30年度司書講習 アンケート集計結果 (回答数/受講数=67名/103名)

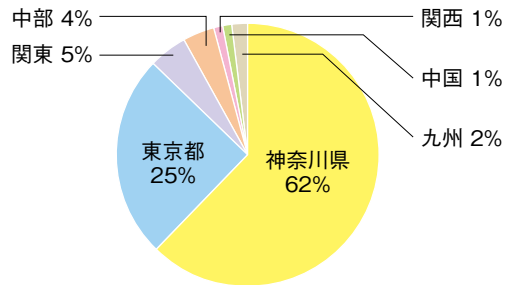
男女別データ



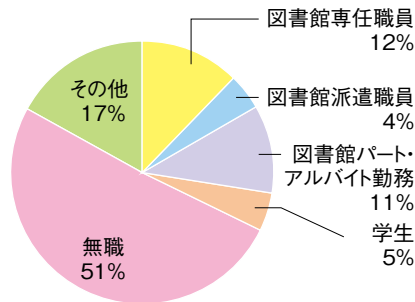
年齢別データ



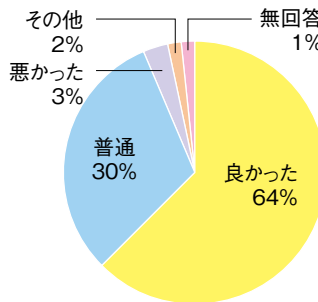
出身県別データ



職業別データ



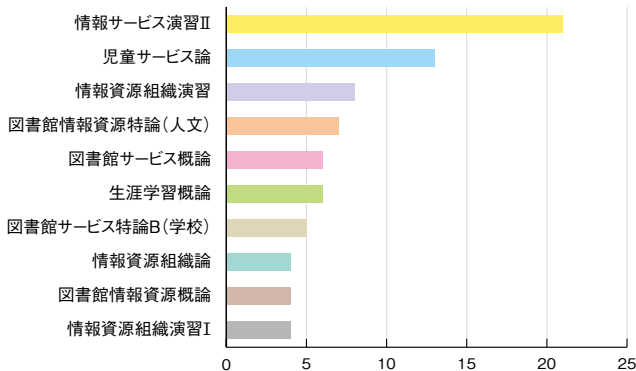
特別講座について



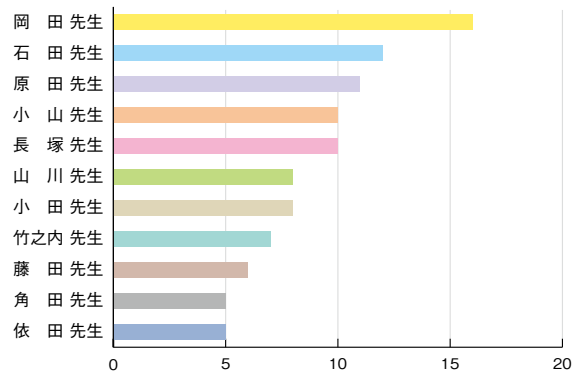
【主な理由】

- 良かった…  
・ビブリオバトルは名前くらいしか知らなかったのですが、どういったものなのかということや、色々なテーマ分けのされたビブリオバトルがあることも知られて面白かったです。  
・ビブリオバトルのことだけでなく「本」「読書」「本屋」にもふれて興味深かったです。
- 普通…  
・ビブリオバトルの実例を詳しく話してほしかった。  
・少しかけ足になってしまったように感じた。もう少しゆっくりビブリオバトルの話が聞きたかったです。

印象に残った科目(上位10科目/複数回答)



印象に残った講師(上位11名/複数回答)



- 情報サービス演習II…図書館に勤める上で最も大切な科目を演習という形でその道のプロの先生方から学べたことはとても良い経験になりました。演習問題や課題を実際に解いていくのは難しく感じることもありましたが、とても充実感がありました。
- 児童サービス論…改めて読み聞かせや、絵本の奥深さ、選書の大切さを実感しました。実習では、受講生の方全員分の、千差万別の発表を聞いたことが貴重な体験になりました。
- 情報資源組織演習…図書館で行う仕事らしい受講内容であると思いました。NDCやBSHを使って分類を行ったり、目録を作成したりすることは難しかったですが、丁寧な解説をして頂きましたので、最後の方にはきちんと理解することができたと思います。
- 図書館情報資源特論(人文)…非常におもしろい講義内容で、もっと長時間受講したかった。先生の話にどんどん引き込まれ、自分でも驚くほど古文書に対する興味を持った。

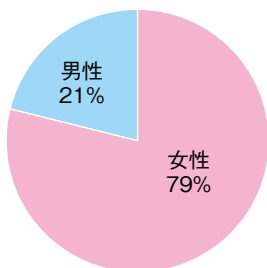
- 岡田先生…授業の中での雑談や魅力的なキャラクターでとても楽しく受講出来ました。岡田先生の授業がなかったら、演習はなかなか理解できなく終わっただかと思えます。
- 石田先生…レプリカや史料を実際に講義の中で見ることは他の講義中でも多々あったが、石田先生から見せて頂いた史料はその質感など、特に興味を惹かれるものばかりでした。鶴見大学の文化財学科の授業を受けてみたいと思いました。
- 原田先生…レファレンスの課題について何度も質問に行きましたが、いつもねばり強く説明してくださり最後まで作成することが出来ました。
- 小山先生…時間のスケジュール管理がきちんとされた、計画的な講義で、多くの知識がわかりやすかった。

感想

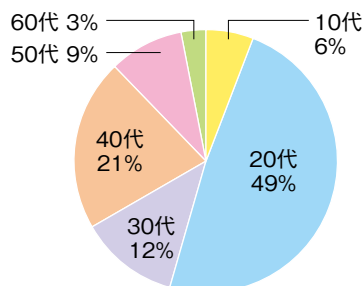
- 今回の講習で得たものは、非常に貴重で、これからの人生において、忘れることはなく、財産になると思います。厳しく、辛い日々でしたが、今思うと充実した日々でした。
- 過酷な日々でしたが、話せる人もできて、楽しくもありました。有難うございました。
- 図書館員の仕事が非常に多岐にわたるものであることを再認識しました。図書館の制度や経営などについても学べたことは良かったと思います。
- パソコン初心者講習では先生がとても気さくで親しみやすく、楽しく受けることができました。台風の影響で最後の1回分が無くなってしまったのがとても残念でした。希望者だけでも別の日に受講したかったです。
- OA研修室は昼休みにも使えたのでとても助かりました。PCも使いやすかったです。
- 図書館の蔵書数に圧倒されました。もっと利用したかったです。
- 講習を受けて特に良かったことは、いろいろな年代の講習生たちと交流したこと。図書館についての話をしたり、授業のわからないことを話し合ったり、楽しい思い出ができてとても良い経験になりました。
- 丁寧で楽しい講義をしてくださった先生方に感謝しております。また、講習全体で私たちを支えてくださった職員の皆さまにも感謝しております。

# 平成30年度司書補講習 アンケート集計結果 (回答数/受講数=24名/33名)

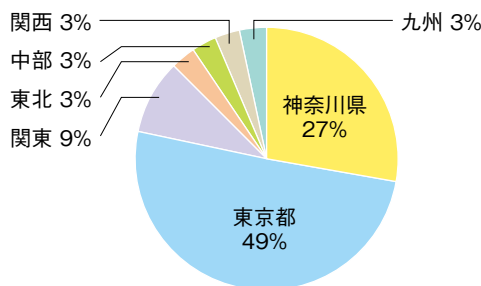
男女別データ



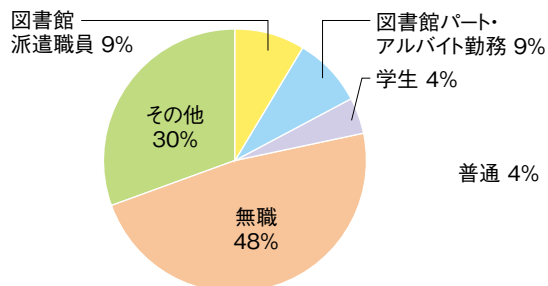
年齢別データ



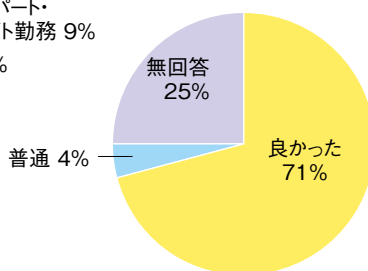
出身県別データ



職業別データ



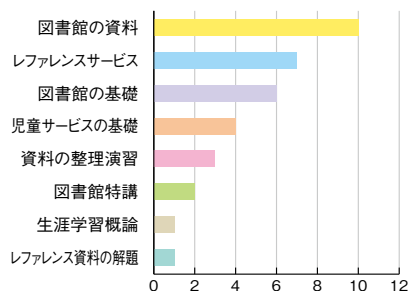
特別講座について



**【主な理由】**  
良かった…

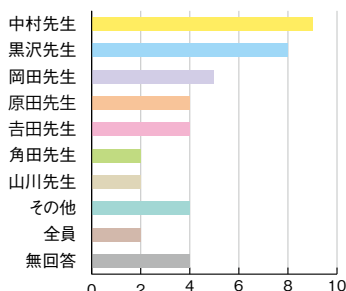
- ピリオオバトルがどのように有意義なものか知ることが出来た。いつか参加する機会があったら良いと思う。
- 参加したいと思う講義でした。小学校の授業参観でピリオオバトルをみたいと思った。
- 新聞で「自分の好きな本を推薦する大会」として記事を読んだことはありましたが、ざっくりとしたものしかわからなかったので、詳しく定義から説明して頂き良かったです。

印象に残った科目(複数回答)



- 図書館の資料**…古典籍は写本、刊行本等、学ぶことが出来て、とても楽しい授業でした。本物を手に取って見ることが出来て良かったです。
- レファレンスサービス**…2日目の図書館内での演習は、レファレンスの難しさ、そして楽しさを知ることができた。質問にも丁寧に答ええていただき、理解が深まった。
- 図書館の基礎**…図書館の歴史から、たくさんの図書館を紹介していただき図書館の見方が変わりました。講義後、いくつかの図書館に見学に行きました。

印象に残った講師(複数回答)



- 中村先生**…授業内容自体は難しいはずなのに、簡潔で分かりやすい説明と、その間に挟まれる豆知識のような話に、とても楽しい授業だと感じることができた。知りたい事が分かって、かつ楽しめる授業でした。
- 黒沢先生**…話し方に特徴があり、どんどん引き込まれました。児童書(本)に対する感想やその本の特徴を先生の視点から教えていただき、たまにくすくす笑いながら、楽しい授業でした。
- 岡田先生**…図書館員は人間力が大事だと教えて下さり、感銘を受けました。講義内容だけでなく人生観も、もっとお聞きしたかったです。

……感想……

- 最初は長いと思っていたけどあっという間に終わってしまって寂しく感じます。授業を受けたりすることが久々だったので学生時代を思い出しました。テスト大変だった…。
- どの先生がたも親切にわからない箇所も丁寧に教えてくれ、最終日を迎える事ができました。本当にありがとうございました。
- 短期集中の資格取得なので、体力的にも精神的にもキツイだろうと覚悟をしていましたが、最初の一週間は想像以上の大変でした。最後まで出席できるか心配でしたが次第に慣れ、仲間もでき、終了する事ができました。通っている時は必死でしたが、振り返ると充実した日々だったと達成感があります。
- 図書館は本当に奥が深く、その一端にふれ、まだまだ知らないことが沢山あったのだと知ることができました。

## ■■ 司書・司書補講習の歩み ■■

鶴見大学の司書・司書補講習は、昭和29年(1954)に開講しました。その間、著名な多くの先生方のご指導の下、優秀な修了生を輩出し、本学の講習は成長してまいりました。そして、開設時の昭和29年に講習生の会として「一夏会」が発足したのがこの会報の由来となっております。

平成9年には大学会館での講習がスタートし、JR鶴見駅から徒歩1分という恵まれた環境で講習を行うことができるようになりました。約60台のパソコンからなるOA研修室や80万冊にも及ぶ質の高い蔵書群を所蔵しコンピュータを駆使した高度な情報提供機能を持っている本学図書館の使用など、時代のニーズにふさわしい講習を行っています。

本学司書・司書補講習は、これらの歴史と数多くの優秀な修了生を誇りに今後ますますの発展を期して努力してまいります。

## 司書・司書補講習受講生の皆様へ

アンケートにご協力頂きましてありがとうございました。皆様のご意見を参考に、今後もより良い講習にしてゆきたいと思っております。また、この「一夏会報」を刊行するにあたり、原稿をご執筆いただきました先生並びに受講生の方々に深く感謝申し上げます。

真夏の暑い中、2ヶ月間お疲れさまでした。